

2019.10.23 (水) 18:30~20:30 月島区民館

「夏休み工作教室でコミュニティ」
～管理組合・自治会が夏休みの宿題のお手伝い～

講師：プラウドシティ柏 団地自治会 兼本 信介／大滝 純志

今回の勉強会は、千葉県柏市 プラウドシティ柏管理組合（345戸 2棟 築14年）からの報告です。もともとは自治会がなかったところから、どのように自治会が発足しコミュニティ活動が芽生えてきたのかについて、コミュニティ活性化に一役買っている「夏休み工作教室」の企画実行の中心となっている兼本信介さんと、同団地に住んでいてコミ研理事でもある大滝純志さんとで、語っていただきました。

20名の方にご参加いただき、冒頭、参加者それぞれのマンションでのコミュニティづくりの事例や、今、困っていること、それをどのように解決しようとしているか、などについて、紹介しあいました。折しも直近の台風での住民連携の様子も聞かれました。

講演の内容は、別掲載の資料集 http://www.mckhug2.com/siryuu_20191023.pdf が素晴らしいので、是非、そちらをご覧ください。あえて重複をさけ、その後の質疑・意見交換の様子を主に記させていただきます。

【講演内容】

別掲載の資料集をご覧ください。

【資料集内容以外での講演のポイント】

- ・ 何もなかったごく普通のマンションでも、熱意のある方がいると、こういったことができ、コミュニティ活動活性化の原動力となりうるということを紹介したかった。（コミ研大滝理事）
- ・ リタイアして、時間があり、何かしたいと思った時、市民のボランティアグループに入った。そこで、工具の使い方を覚え、楽しくなった。その他も含めて市民団体活動への参加は、自分にとって、その後の自らの団地でのコミュニティ活動への大きなプラスとなった。いろんな知り合いができ、アドバイスもいただけた。（講師の兼本さん）
- ・ 現役時代は、まさに仕事人間であったが、第二の人生は地元で根ざしたいと考えていた。しかし、いざ退職となった途端、何もすることがなかった。そこで、地元とのつながりを求め、シルバー人材センターの会員になり、今、公共機関での非常勤の仕事についている。一方で、住んでいるマンションで知り合いもなく活動拠点が無いのはさみしいと思っていたところ、兼本さんの工作教室に出会った。最初はできる範囲でと思っていたが、いつのまにかどっぷりと楽しんでいる自分を見つけた。（協力者櫻又さん）

【Q&A】・【意見交換】

Q. 木などの材料の消毒について？

A. 子どもが触れるので、消毒は必要。アルコールなどの適切な薬剤で行う。ドングリは煮沸する。自然の素材である木材や木の実からは、虫が出てきたりもするが、工作は楽しい。

Q. 後継者は育っていますか？

A. リタイア組がいるので、狙いをつけて声掛けをしている。大人のための木工会を企画している。60歳以上の女性が参加してくれると有難い。

(意見) 子どもたちとの工作教室ではあるが、大人が参画し、第二の人生で、人の役に立ちながら、友達作りもでき、楽しく、生き活きとしてやっている、というところがとても印象的ですね。

(講師意見) 押し付けたりせず、とにかく下手、低姿勢でお願いすること、そして楽しくやること、理解者、協力者を増やし、人の輪を広げていくコツだと思っている。

(意見) それは、マンションでものごとを進めるうえで一番大事な姿勢と言えるかも知れませんね。

(意見) ボランティアやコミュニティ活動というのは、人のためというより自分のためという考えの方が長続きし、輪も広がる。

(意見) 出来合いの交流の場所に行って顔見知りができるというのも決して無駄ではないが、自分たちで苦労して、人を集め、手間暇をかけ、一步一步進めていく、そのようなプロセスを踏むことで、互いの気持ちも通じ、コミュニティが育っていく力が生まれるのではないか。

(講師意見) これまでの過程を、あまり、苦労と思っていない。仲間もいて、楽しくやっている。工作教室に80歳のおばあちゃんが参加してくれたりすると、うれしくてしょうがない。そういう機会をもっと増やしたいという気持ちでいる。

(協力者・コミ研大滝理事意見) 自分はまだ現役世代であるが、仕事人間のままでリタイアを迎えるのではなく、地元・地域での活動、活躍の場を見出している先輩たちに、そういう生きざまを今、見せていただくことは、とても、有難い。

この工作教室のように、ちょっとしたことがきっかけで活動が始まり、後は、廻りが動いてくれるというケースもある。

イベントと言うのは準備が大変だが、準備段階もまた貴重なコミュニティ活動である。

我団地では、役員が子供たちのためにハロウィンもやっている。当初は仮装した子供たちが、当日にお菓子をもらって回るだけだったが、一週間以上前からエントランスに飾り付けをするようになるなど、内容が年々エスカレートおり、「飾りの蜘蛛が気持ち悪い」という声も含め、反響が増えている。ハロウィン飾りが出来るならクリスマス飾りもという声もあり、まずは動くことが大事と強く思う経験をしている。

マンションコミュニティの活性化、コミュニティ形成の進め方、第二の人生における地域コミュニティとのつながりの在り方等々について、様々のヒントと示唆を得た勉強会でした。コミ研らしい勉強会でした。

(以上)